

## ぽっぽ 46 号 新春お年玉〇×クイズ

### 正解

1 ○

4 ×

2 ×

5 ○

3 ○

6 ○

### 解説

① 昔の鏡に由来します。昔の鏡というのは丸い形をした銅鏡ですが、古くは弥生時代から使われた三種の神器の一つでもあります。鏡は、日の光を反射し太陽のように光ることから、日本神話で太陽の神様とされる天照大神に見立てられ、神様が宿るものと考えられるようになってきました。

② 書初めとは、年が明けて新年に始めて毛筆で字を書く行事をいいます。現代では、新年の抱負や目標をしたためるものとして行うことが多いですね。何故？1月2日におこなうのでしょうか？昔の農家や商家は1月2日から仕事を始めたことから、1月2日が事始めと言われています。その1年の事始めの日に書初めをすることが定着してきました。

③ そもそも富士山、鷹、茄子にまつわる夢がなぜ縁起がいいのか。

由来は「徳川家康がこの3つを好んでいたから」徳川家康のお膝元であった駿河国で高い物の順、富士は日本一の山、鷹は賢くて強い鳥、なすは事を“成す”など諸説があるそうです。さて一富士二鷹三茄子の続きは、「四扇（しせん、しおうぎ）五煙草（ごたばこ）六座頭（ろくざとう）」だそうです。

④ 鏡餅の上に乗せるのはみかんではなく「橙（だいたい）」という名のかんきつ類」木から実が落ちずに年を越すことから「代々」となり、縁起が良い果物とされている。

⑤ 雑煮に使われる餅は、「東の角餅、西の丸餅」といわれるように、東日本ではのし餅を切った四角い角餅、西日本は丸い小餅を食べることが多いとされる。雑煮の発祥の地である京都では餅をついて一つ一つ手で丸める丸餅が主流である。東日本の食の中心的役割は江戸が担うことが多かったのであるが、江戸で角餅文化が広まったのにはいくつか説があると言われている。将軍がいる江戸では「敵をのす」という意味でのし餅が使われるようになったとも言われている。また人口の多い江戸では、かまどが一つしかない長屋住まいの人は餅をついて丸める余裕がなかったため、手早く大量に作れるようにとのし餅を作り一気に切って角餅にしたとも言われている。

⑥ 引いた後のおみくじを神社の境内にある木の枝に結びつけるという習慣は、「結ぶ」が恋愛の「縁を結ぶ」に通じるからという意味で、江戸時代から行われていたようです。おみくじ結びつける場所は、必ずしも木の枝とはかぎりません。最近では、木の枝に結ぶとその木の生育が悪くなるということで、おみくじのための専用の場所を用意している神社が増えています。